

田中俊一原子力規制委員長の南相馬における発言についての 南相馬市除染推進委員長見解

田中俊一原子力規制委員会委員長は、平成27年10月南相馬市の訪問において市長との会見において、平成25年の南相馬市の米のセシウム汚染について、がれき処理でた可能性を否定し、山林から出たセシウムが原因との説を提唱されている（[参考資料1](http://www.lsbm.org/fukushima/shiryo.html)：<http://www.lsbm.org/fukushima/shiryo.html> 東京大学先端科学技術研究センターホームページ）。

しかし、田中委員長は、現地の水源、圃場の調査を一度もこなっておらず、田中委員長自身が、「規制委員会には植物移行の専門家はいない」とのべているように、米のセシウム汚染の科学的検討を行った発言ではない。平成25年の第一原発の建屋カバー撤去時のがれき飛散後の汚染は、南相馬市では、複数の水源をもつ、複数の圃場でおこっている。しかも前年には汚染が検出されておらず、汚染水原因説は、科学的根拠のないものである。田中委員長は、規制委員会のシミュレーション結果をもとに、コメ汚染は、がれき飛散によるものではないとしているが、そのシミュレーション結果については実測データとの乖離が指摘されている（[参考資料2](#)）。

南相馬市除染推進委員会では農業用水の除染を中心課題として現地視察、作業進捗を重視して行っており、水の汚染から複数の圃場の栽培米の汚染が安易におこる状況ではない。平成26年以降の栽培米はすべて規制値以下のものとなっている。

原子力規制委員会は、事故原発からの放射性物質の放出防止に責任をもつ立場であり、安易な汚染水原因論を唱えるよりも、放散防止の遂行に全力を上げるべき責任をもつことを深く自覚することを求める。

参考資料1

田中 たぶん私の想像ですけれども、山の除染はすんでいません。山は少しよごれています。正直言って。そういうところから流れてくる水の中には若干セシウムがとけこんでいるような水もあると思います。今後ともある程度そういう事例が出てくる可能性は、私は否定できないと思います。がれきが飛ばなくなつてそういうことはあると思うんです。ですから今回出たやつでも、みず道みたいにずっと並んでいるところですよ。そういう可能性がありますので、そういう問題があるという前提としてどう克服していくか。

参考資料 2

委員会の検討の中では、シミュレーション値については次のような意見も存在する。

「3号機ガレキ撤去作業（平成25年8月）に伴う放射性物質の敷地外への降下量について（平成26年11月）」（平成26年度第41回原子力規制委員会配付資料4）
<https://www.nsr.go.jp/data/000095677.pdf> に、放射性物質放出量の評価値（ 1.1×10^{11} Bq）とその算定方法が記載されているが、この値は著しく過小評価である可能性がある。SPEEDI シミュレーションは、放射性物質放出量を各地点の降下量に配分するもので、降下量シミュレーションの結果は入力される放射性物質放出量に比例する相対値である。放射性物質放出量の評価値（ 1.1×10^{11} Bq）を入力した場合の双葉町郡山における SPEEDI の降下量シミュレーションの値が8月の実測値の0.4%にすぎないことは、放射性物質放出量の評価値（ 1.1×10^{11} Bq）が著しく過小で、実際の放射性物質放出量が原子力規制庁の評価値の100倍程度であった可能性もある。この数値を実測値との検証なしに、特定地点でのコメ汚染の原因推定に用いることは妥当でない。